

「今月も結構な額が引かれてるわ」  
と、母はパートの給与明細を見ながら呟いた。パート勤めの母には徴収されている所得税や住民税が負担になっているようだ。もちろん、母は納税の義務や、意義も知っているだろう。しかし、毎月のように機械的に徴収されている税に納得していない様子だった。

そこで、ある時私は母に尋ねた。

「ママは税金を払うのが嫌なの？」  
すると、母は、困ったような顔で  
「どこにどのように使われているか分かんないからね」  
と答えた。

一方、父はスーパーで買い物をした時に、可愛らしい盲導犬のフィギュアのついた募金箱にお金をよく入れている。その父に「どうしていつも寄付しているの？」と聞いたことがある。すると父は、

「もし、自分が何も見えない世界で生活することを考えると、怖くてたまらないよね。それでも一生懸命にがんばっている方たちに盲導犬を通して力になってあげたいからだよ」

と答えた。

母と父は同じように社会のため、人のためにお金を使っているが、その気持ちや姿勢に違いを感じる。一言で言えば、母は「仕方無く」父は「喜んで」だ。その原因は、お金がどのように使われるのか分かっているのか、そうでないのか。という所にあると思える。母の税金は強制的に引き落とされる物なので、給与明細を見る度に憂鬱になるのか、それとも、社会に貢献できたという喜びを感じるのか。その差は大きいと思う。

このことから、納税者が税の使い道をよく知り、税に対して前向きな姿勢であることが大切だと感じた。

納税者は、税を払ったことに意識を向けがちだが、今年は税（支援）に救われたケースも多いように思う。実際、我が家でも特別定額給付金を受け取ったし、マスクが品薄で手に入りにくかった時、アベノマスクが送られてきた時は勇気づけられた。

また、感染症（コロナ）のみならず、豪雨災害も多く、沢山の支援金も送られた。

税金によって私たちの基本的な生活基盤は支えられている。同時に、様々な緊急支援に税が使われている。そのことを、母のような人に分かりやすく伝え、税が有効活用されていることを実感してほしいと思った。

私にとって「税」は、縁の下の力持ちのような存在だ。税が様々な状況で社会を支えている。その税と納税者に感謝の気持ちを感じると同時に、時には、縁の下から出て来てもらい、惜しみ無い称賛を送りたいと思う。

もちろん、毎月納税を欠かさない母も含めてだ。